第１４回　ＪＣＨＯ高岡ふしき病院地域協議会

日　時　令和４年２月１７日（木）１５時３０分～１６時３０分
場　所　JCHO 高岡ふしき病院２階会議室
各委員　医師会：一般社団法人　高岡市医師会監事
　　たみの医院　院長　　民野　均（欠席）
　　行　政：高岡市福祉保健部健康増進課長
　　・保健センター所長　　長田　由美子
　　地　域：公益社団法人富山県アイバンク理事長
　　ＪＣＨＯ高岡ふしき病院支援の会　会長　大黒　幸雄
　　（以上、敬称略）
　　病　院：高岡ふしき病院　院長　　高嶋　修太郎
　　同　　副院長　　宮﨑　幹也
　　同　　副院長　　和田　攻
　　同　　看護部長　　諸江　由紀子
　　同　　事務長　　木下　敦士

内　容
高嶋院長から、第１４回地域協議会開催の挨拶があり、協議会の開催趣旨（独立行政法人地域医療機能推進機構協議会設置要綱第５条）により、高嶋院長が議長となり議事に入った。

議　事
１　院長挨拶
本日は、ご多忙の中、ご臨席頂き感謝申し上げます。独立行政法人地域医療推進機構法第 20 条にて、協議会等を開催して、広く有識者、関係者の意見を聴取し、当該地域の実情に応じた運営に努めなければならないと規定されております。このことから、皆様方のご意見を伺う機会を年に２回設けており、今回が今年度２回目の開催となります。引き続き当院が地域医療に貢献できるよう忌憚ないご意見をお聞かせ頂きますよう宜しくお願いいたします。

２　協　　議
（１）当院の現状の説明
新型コロナウイルス感染症対策等について
コロナ患者の入院病床として５階病棟の東側の 11 床のエリアにパーテーションで仕切りを作り、コロナ病床としました。病室にバスとトイレが設置されている必要があり、４床が受け入れ可能です。一番多い時で４人のコロナ患者

を受け入れています。しかし、実際の個室は２部屋しかありませんので、多くの場合は２人の患者を受け入れていました。当院では中等症までの患者を診療し、重症或いは重症化しそうな患者は、厚生連高岡病院へ転送しています。第６波になって１人だけ重症患者が出て、厚生連高岡病院へ転送させて頂きました。主に軽症または無症状の患者を受け入れており、短期間で退院される場合が多いです。

また、熱発患者の診療、および、厚生センターからの濃厚接触者の PCR 検査依頼を、発熱外来にて対応しています。やはり、第６波になり患者数が増加し PCR 検査の件数も増えています。当院で PCR 検査を行った患者の 38%が陽性との結果が出ていて、以前と比較してもかなり多くの陽性者が出ている現状です。

さらに、予防医学の観点から３回目のワクチン接種を毎週　木、金曜日に約 70 名ずつ行っています。しかし、３月に入りファイザー社製のワクチンの確保が少なくなり、1 日の接種人数を減少することになります。ワクチン接種に関しては高岡市の長田課長の方が状況をよくご存知のことかと思います。更に当院は小児科医もいるので、小児へのワクチン接種も行う予定です。そして、㈱CV サンエツへの職域接種を昨年行い、３月５日（土）に第３回目のワクチン接種を行う予定です。

以上、新型コロナウイルス感染症患者の入院治療の受け入れ、発熱外来での診断、ワクチン接種による予防と、当院では新型コロナ対策に協力しています。尚、院内でのクラスターの発生はなく、子供など家族が感染して濃厚接触者として休んだ職員が数名いましたが、当院の職員が感染したという報告はこれまで聞いていません。

当院の経常収支と運営方針に関して

当院を含めて、公的病院では新型コロナ対策を行っているので、それに対する補助金を頂いています。コロナ対策に係る補助金を差し引けば、収支についてはほぼとんとんです。11 床をコロナ患者の受け入れのために休床としているので、この分の稼働病床数が減少し、入院収入は減少しています。また、外来患者数もコロナ禍前よりも減少していて、収入減の要因となっています。このように経営が困難な状況ですが、収支は赤字になることはなく、補助金を加えることで黒字経営が行われている状況です。JCHO 本部からは、コロナが収束して補助金収入が得られなくなり、赤字病院が多くなることを危惧して、コロナ収束後にどのような経営戦略を立てていくのか、JCHO の各病院に対策を検討するように指示が出ています。そこで、当院でもコロナ後の当院の運営方針を現在検討している所であります。次回の協議会にて、コロナ後の対策に関してご報告したいと考えています。

（２）各委員からのご意見

①　行政より

（長田課長）

厚生センターの PCR 検査の方針について説明します。今朝ほど次長さんから連絡があったのですが、家族で陽性者が出た場合、これまでは小さいお子さんも検査対象としていましたが、検査が手一杯ということから、検査はせずに自宅待機とすることになりました。PCR の検査対象者としては医療重視者や保育所、高齢者施設、消防署の職員等を検査対象としていくことに方針が変わりました。

（高嶋院長）

PCR 検査や抗原定量検査のキットが不足しているため、エッセンシャルワーカーを検査対象に限定しているものと思われます。

（長田課長）

濃厚接触者の方も厚生センターの方からは連絡せずに、各人が自己判断で対応するように言われています。そこで、市の職員に対しても周知を図り対応を協議しているところです。

（高嶋院長）

昨日、発熱外来患者が増えた場合の対応をどうするのかということを Q&A 方式で書かれたマニュアルが配布されたので、当院でも、それを参考にしながら対応したいと考えています。

②　医師会から

（民野先生欠席）

③　地域・患者の立場から

（大黒会長）

日本にとってこのようなことは初めてのことですから、大騒ぎになっているのでしょう。国が少しうろたえすぎているようにも見えますし、それにかき回される先生方は非常に辛い思いをされているのだろうとも思います。大変だということは分かりますが、“我々は大丈夫だ”と言っている国もあり、それに比べれば日本は穏やかに動いているのだろうと思います。ただお金がかかるということは大変なことなので、先生方も色々と遣り繰りしなければならないですし、我々が説明をしたところで分かる訳でもありませんので、結局のところは先生方が色々と動かなければならないのだろうと思います。私自身が病人になった訳ではないので、高みの見物みたいなことを言っておりますが、誰か一人でも感染者が出たら大変なことになるのだろうと思います。自分に自信が持てないから、妙に周りのことを色々という雑音が多いと思います。病院は全体とは関係な

く、病原ウイルスを相手にして戦っているわけですから、私たち一般人に分かる由もありません。大変だろうということは理解できますが、ただどうしたものかなということになってしまいます。
（高嶋院長）
風評被害やハラスメントが起きないように職員等にも十分に注意している所です。
（大黒会長）
国民性として、批判することが多いですし政治家も少し考えた方が良いのかもしれません。ウイルスの対処の仕方が国や県や市といった行政機関がどこまでのことを対処できるのかは先生方の考えを基に決定付けられております。高岡市は上手く動けていると私は感じます。感染者数は日本で一番少ないのではないですか。
（高嶋院長）
全国的には少ない方です。
（大黒会長）
感染者数が少なく収まっているというのであれば、これは先生方の功績として広く知らしめる必要があるのかと思います。市民が先生方の指示にきちんと従っているのだからこそ感染者数が少なく済んでいるのではないかと思います。人が密集する場所に出かけて感染してしまい、帰宅して身近な人に感染が広がってしまうことが一番責任を感じてしまうことになります。様々な情報によりますと伏木地区ではコロナ感染に関する噂が独り歩きしておらず、“仮に感染してしまっても、ふしき病院があるから大丈夫だ”と言っている住民も多く、このような認識も非常に大切だと思います。
（木下事務長）
２年前の今頃、ちょうどコロナで騒ぎだした頃に、当院でも人間ドックを止めたり等様々な感染予防対策を行いました。これに伴い、外来患者数が激減しました。病院としては感染対策を講じているので安心して受診して下さいという地域広報を何回かに分けて発信しました。今は、外来患者数も以前と同じくらいの人数になりました。
（大黒会長）
私は、限定された地域において公的病院としてふしき病院があるということは非常に重要なことであると考えております。歴史的に見ますと、伏木や新湊のような港町は港湾労働者が多くいるため、外傷を負う人が多くなります。それらの人々を診るために外科的医療を行うための病院が必要となりました。その後、近代化が進むにつれて町も発展してきましたが、当時の富山県内には外科病院の数はまだまだ少なく、高岡には病院すら無かったようです。このような実情からか、当初は富山県から派遣されたインターンの医師１人がお寺の境内を借りた

診療所にて医療を行っていたそうです。その頃には伏木でも初めて外科病院が出来たそうです。その外科病院には新潟県、石川県、福井県からも患者が訪れましたとのことで院内には患者のためのお風呂もあったそうです。この外科病院にいたある医師は最終的には東京の大病院の院長ポストに就く予定で副院長職としておられましたが、四国の病院で医療を行うことを決断され、若き外科医として四国中の多くの外科患者の診療に当たられたそうです。しかしその後、この伏木の外科病院に移られ同様に多くの外科患者の診療に当たられたとのことです。先ほど申した通り伏木は港町ですので港湾労働者も多く、彼らにしてみれば怪我をしても直ぐに安心した医療を受けられるということで、労働生産性がものすごく上がったそうです。その後も高岡市内において幾つかの外科病院が出来、非常に潤った病院経営が出来ていたと聞きます。しかしながら、経営があまり上手くいきすぎると当時は行政機関からも好ましく思われず、最終的には名は『病院』とありますが、お年寄りと囲碁を打って暇を持て余す医療の提供とは程遠い病院もあったようです。しかしながらこのような状況でも患者にとっては病院があるという事だけで安心できます。こういったことは伏木地区の住民にとっても言えることで、ふしき病院は地域にしてみても重要であり、絶対に必要な病院であると当時の市長にもよく話したものです。地域医療構想の議論において、ふしき病院が統廃合されるかもしれないという話が上がった時、連合自治会等で大変大きな騒ぎとなりました。ふしき病院は地域住民に収まらず、伏木地区にある企業、職場との繋がりも非常に強い病院であり地域住民にとって必要不可欠な病院なのです。ふしき病院には力があるのだといえば、同意見の町民が殆どなのです。今般のコロナ禍においても一際落ち着きを放っているとも感じております。このことは是非、病院の皆様には心に止めておいて頂きたいことです。

３　その他

（宮﨑副院長）

大黒会長から見れば私はまだまだ若造かもしれませんが、年々当院の医師や看護師の高齢化、殊、医師の高齢化が進んでおります。若い医師に来てもらうことは非常に良いことですが、逆に若い医師に診てもらうということに不安を感じる患者もおります。私達は臨床経験も長いですので、その分患者に安心して受診して頂けるのかなとも思っております。

（大黒会長）

高齢患者は皆、先生方のファンなのです。ですから信頼感をもって安心して受診することが出来るのです。

（宮﨑副院長）

安心感をもって受診して頂けることは大変有難く感じます。

（木下事務長）
当院の先生方は先ほど宮﨑副院長が言われ通りベテランが多いです。さらに、単にベテランではなく専門性が非常に高いベテランの医師が揃っております。そういったことからしっかり地域医療が行えているものと自負しております。
（大黒会長）
患者と医師の信頼関係が崩れるとその患者にとって、病院全体の評価が下がることに繋がってしまいます。その様な点からもふしき病院は大変人間関係が良い病院と感じます。
（和田副院長）
医師同士であっても、外側や内側でより良い人間関係が構築出来る様、急性期病院と連携を強めて適材適所な医療を提供出来る様、努めてきたいと思っております。
（大黒会長）
私は他院において、医師との人間関係で非常に苦い思いしたことがあります。患者と医師の人間関係が良ければ、治療を受けるに当たっても主治医に信頼がおけるため、より効果的な療養を行うことが出来るし、肉体的も精神的にも苦痛を伴うことがあったとしても和らげることが出来ます。
（諸江看護部長）
コロナ禍になって面会制限をかけざるをえませんでした。また、密を避けるため外来患者の早すぎる来院をお断りするといったお願いをして参りました。お陰をもちまして外来がごった返すこともなく、加えてマスクを正しく着けて来院して頂く等、皆様には大変ご理解とご協力をして頂き我々医療者にとって大変助かりました。その他に保安上の観点からこれまでと違い病院の出入りが自由に行えなくなる様な制限をかけ、様々なご不便をおかけすることなりました。この辺り事を地域住民の方から御不満等お聞きになっておられませんか。
（大黒会長）
歴史的に伏木は“人を信頼していく”という考えを基に発展してきた町ですから、その信頼する病院にとって止むを得ない事情があってのことですから、『仕方がない』というのが地域住民の本音です。
（木下事務長）
話は少し変わりますが、この伏木地区で開業されている先生方とは従前より地域医療連携を密に行っておりました。昨年の１２月前から改めて地域医療強化を図るため、牧野地区や小矢部川の向こう側まで足を延ばして院長と病診連携スタッフが、開業医や居宅介護支援所等を回って連携強化のお願いに複数回伺いました。伏木地区のみならず他の地区からの紹介も受けている状況となりました。加えて公的病院でありながら当院は宮﨑副院長をはじめとして訪問診療に力を入れた結果、地域住民からの信頼を得ることが出来ているのです。コロナ

禍により支援の会の総会や役員会を行うことが出来ずこの２年間ふしき病院の活動をお示しできる場がなくて申し訳なく思っておりますが、近い将来、たとえ口頭であってもお示しできる場を設けたいと考えております。
（長田課長）
コロナの関係で患者の受診控えは深刻な問題だと思いますが、がん検診については、肺がん検診以外の健診では、令和２年度よりはどれも増加傾向となりました。しかし、令和元年度と比較すれば、まだまだ戻ってきていないような状況です。また、集団検診よりも医療機関で健診を受けられる方の件数の方が多くなっているような現状です。病院の皆様には引き続きがん検診について御協力をお願い致します。また、特定健診についても令和元年度のデータの取り纏めたものが出来、県内市町村の特性が読み取れるのですが、やはり呉西地区の方では、糖尿病の方がまだまだ多いことが分かりました。高岡でも血糖値が高い方が多いという結果が出ております。一方でメタボ率が従前より減少していることが分かりました。保健医療行政が行う健康教室等をご利用頂いて、健康寿命が延びたという実績でした。今後も市の方としても継続的に取り組んで参りますので引き続きご協力をお願い致します。また、道の駅での健康体操についてもふしき病院さんにご協力を頂き感謝しております。
（木下事務長）
道の駅のイベントは、２年目を迎えた当院を中心とする地域包括ケア講座の一つとして取り組んでおります。今後も地域に向けて情報発信を続けてきたいと思っております。
（長田課長）
コロナワクチンについても。接種券等の発送や予約枠の調整を行っております。ワクチンのメーカによって確保できるバイアル数も異なってきますが、こちらについてもよろしくお願い致します。
（宮﨑副院長）
先程、特定健診のお話がございましたが、令和４年度もやはり６～１０月の予定なのでしょうか。
（長田課長）
今の所、その予定です。
（宮﨑副院長）
これまでは６～７月の２か月間だったのですが、期間が長くなると言い方が悪くなるのですが、だらだらとなってしまいます。病院としては特別な体制を維持しなければなりません。
（木下事務長）
特定健診に加えてコロナのワクチン接種も加わりましたので、これまでとは違った状況となっております。

（宮﨑副院長）
今年はワクチンがどうなるか現時点ではまだ分かりませんが、今後ご検討頂けますと有難いです。
（大黒会長）
看護職員の確保は出来ているのですか。若い看護師よりもベテランの看護師の方が安心できるという患者もいると思いますが如何でしょうか。
（看護部長）
私共もベテランの看護師にお願いした方が安心なのですが、後進が育っていないとういう不安も常にあります。今いる若いスタッフには教育を行いながら育てておりますが、毎年退職した人数だけ新人が入職する訳ではなく、半数が中途採用者に頼っているような状況です。
（宮﨑副院長）
ちょうど当院が新築（築４０年）された時に入職した多くの看護職員が、定年を迎える年齢となっているため、ここ数年は退職者が多く出るような現状です。

４　閉会
（宮﨑副院長）
本日は足元が悪い中、ご参集頂き有難うございました。来年度も市の保健行政事業或いは地域住民の方の健康増進のために引き続き頑張っていきたいと思っておりますので、今後とも引き続きよろしくお願い致します。
（木下事務長）
それではこれをもちまして令和３年度第２回地域協議会を閉会致します。次回は来年の７月頃を予定しております。期日が近づきましたら改めてご案内させて頂きますのでその節にはよろしくお願い致します。本日は有難うございました。